

## 中国物流講演会を開催

(社)日本物流団体連合会(物流連)は、平成16年7月27日(火)14:30から全日通霞が関ビルにおいて、中国物流講演会を開催いたしました。

この講演会は、物流連の物流効率化委員会と経営問題委員会が委員会活動の一環として、開催したもので、神戸大学大学院経営学研究科 ユウリン 黄磷教授より「中国市場で成功するための現代物流」～中国物流の問題点と日本企業の課題～をテーマに基調講演がありました。委員会委員、会員事業者あわせて約100名が参加しました。

講演要旨は次のとおりです。

### 1. 輸出生産拠点から市場としての中国へ

日本企業は、1995年頃まで中国を「輸出生産拠点」としてとらえ、工場を中国に移してきた企業が多い。ところが90年代後半以降は、「市場としての中国」に注目し、中国に進出する企業が目立ってきた。この動きは中国での現代物流(ロジスティクス)へも大きな変化をもたらすこととなった。

従来の輸出入を中心とした物流から、現地調達・現地販売のできる物流が日本企業にとって重要な戦略課題となり、今後はグローバルロジスティクスの視点が重要である。つまり中国の生産拠点をグローバルネットワークの中心に位置付けて考えることである。

### 2. 中国の物流インフラ

広大な国土を有する中国の交通・輸送インフラは沿海部に集中していた。しかし最近では西部の大開発や東北経済の振興により、道路網や航空輸送網が急速に整備され、これら輸送インフラの発達により外資、国有大手、民営の物流企業が急速な成長を遂げてきている。

また中国政府は2001年より、物流を経済成長の1つの柱として位置付け、「我が国の現代物流の発展を加速させるための意見」として6省庁が共同通達を出し、SCMや3PLの発展・促進を明確な目標として掲げた。具体的には、

- ①物流に関する政策法規、企業登記、許認可、納税業務、都市の交通規制、税関業務の整備
- ②大型物流集散基地の建設、外資導入による物流インフラの整備
- ③EDI、インターネット、物流BtoBなどITの広範な活用
- ④海外からの技術導入、人材開発と育成

これらは、中国市場で商売をする日本企業をはじめとする外国企業にとって大きなチャンスとなっている。

このように中国の物流が急速に発展し整備されつつある一方で、通関システムも94年3月より北京空港税関でEDIが導入され、以降武漢や重慶などの内陸部でもEDIによる標準化が図られるようになった。しかしながら中国の通関制度は非常に難解で、省庁・部署によって様々な仕組みや規制が設けられて

いることから、通関業務については信頼できる通関代理業者が必要となっている。

中国に進出する日本企業にとっての課題は、中国の法律や条例、通達が頻繁に変わることであり、WTO加盟に伴う改正など、日本企業はこれらを視野に入れて戦略を立てていかなければならない。

### 3. 中国で成功するためには

中国市場は、日本企業にとって重要な収益源になっており、ここ数年で日本企業の中国への依存度は急激に高まっている。このことは2003年の日中貿易総額は1335.8億ドル(前年比31.1%増)で11年連続で日本は中国の最大の貿易相手国となっていることからもうかがえる。

日本の物流事業者が中国市場で成功するためには、輸出入物流だけでなく、小売業の急速な変化によって、中国の広域市場をカバーできるような物流システムを構築する必要がある。さらにこれら物流システムの構築とともに、企業がいかに戦略を立てて中国市場の重要性と中国国内の変化の早さに対応できるかということである。

以上

(連絡先)担 当 慶 谷 ・ 大 橋  
TEL 03-3593-0139